

環境マネジメント

積水ハウスでは、高精度な工業化住宅の基本性能を支えるプロセスマネジメントとして、全工場でISO14001の統合環境認証を取得しています。さらに多様な事業プロセスで、バリューチェーン全体を通じた価値創造的プロセスマネジメントとして、独自の環境マネジメントを拡大しています。

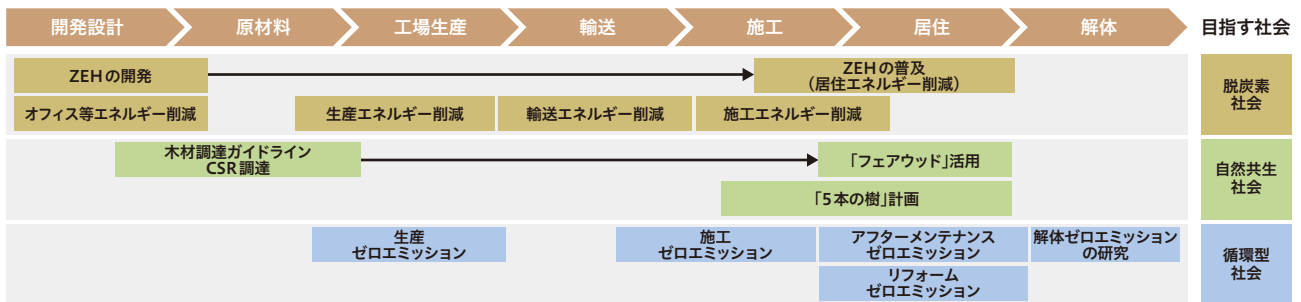
「持続可能性」に基づく、統合的な「環境マネジメント」の実現

これまで「環境マネジメント」は、事業者等が、環境保全に向け、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいく狭義の環境保全活動としてとらえられることが一般的でした。

しかし、SDGsに代表される持続可能性実現のための企業の役割に照らせば、「環境」のみならず、事業の上下流の「経済」「社会」も視野に入れた、より総合的な視点

での統合的なマネジメントシステムの構築が求められています。当社では、2005年に、いち早く「持続可能性を経営の基軸に据える」とする「サステナブル・ビジョン」を発表。環境マネジメントにおいても先駆的に持続可能性に配慮した取り組みを進めてきました。以下に、各ページで紹介した取り組みについて、バリューチェーンにおける活動の視点で整理しました。

バリューチェーンにおける環境マネジメント



(冊子版で紹介している代表的な取り組み中心。SDGsとの関係についてはP.15-16参照)

「エコ・ファースト企業」として、環境保全の取り組みを深化

積水ハウスは2008年に「エコ・ファーストの約束」を行い、業界における環境先進企業であることを環境大臣に認定されました。その後、着実に自らの環境保全に関する取り組みを深化させ、2012年3月および2016年12月に、社会情勢の変化や取り組みの進捗を反映し、

「温暖化防止」「生態系保全」「資源循環」という大きな枠組みはそのままに約束の内容を更新しています。

また、エコ・ファースト企業40社による自主運営組織「エコ・ファースト推進協議会」の第3代議長会社として2014年から環境先進企業をリードしています。

深化させた取り組み例

①温暖化防止

2020年までに戸建住宅におけるZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)比率を80%に



「グリーンファーストゼロ」の拡販

2017年度 **76%**

②生態系保全

2020年に在来種中心の植樹(「5本の樹」計画)による累積植栽本数を1500万本に



「5本の樹」計画の推進

2017年度末 累積 **1409万本**

③資源循環

生産・施工・アフターメンテナンス時のゼロエミッションを継続するとともにマテリアルリサイクル率を90%以上に



資源循環センターでのプラスチック類の分別

2017年度 **84.7%**